

音楽と社会の様々な関わり方

大塚美佑、栗林幸広

最近、音楽と社会の関わり方に新しいアプローチが生まれつつある。

「音楽を通して地域活性化に貢献したい。」こう話すのは、都内で音楽教室を手掛けながら関東地方の小・中・高校生の吹奏楽指導にあたり、コンクールなどで数多くの実績を残しているドラマーの石川広志さんだ。石川さんは3年程前から、幅広い年齢層で構成される **Swing Beat Team Hiroshi** を結成し、千葉県柏市を拠点に地域商店街での定期的なコンサートや、デイケアホームでのボランティア演奏活動等を行っている。お年寄りをターゲットに、毎回普通のコンサートでは見られない「仕掛け」を用意し彼らを巻き込んだ参加型のコンサートを提供することで、お年寄り自身が音楽によって元気になることを目指している。そして、彼らの活力が地域の結束や活性化につながるという良い循環を音楽によって作り上げることが、石川さんの願いであり **Swing Beat Team Hiroshi** の原動力だ。

このように地域というミクロのレベルで音楽と社会の関わりを見つめる石川さんに対し、現在、より大きな社会に対して音楽でアプローチする「社会音楽家」プロジェクトがにわかに関心を集めている。今日のビジネスの世界では「社会起業家」が注目されており、彼らは社会問題の解決に寄与するべく新しい仕組みを社会に導入することから、チェンジメーカーとも呼ばれている。社会問題の解決には人々の意識、特に若い世代一人ひとりの社会への関心が不可欠であり、音楽を通して世の中に一石を投じるべく社会のチェンジメーカーを目指すことが社会音楽家プロジェクトの趣旨だ。音楽を通して社会問題について考える機会を提供することがプロジェクトの目的であるため、参加者もプロからアマチュアまで幅広いことが特徴だ。

例えば実際の社会音楽家プロジェクト主催のコンサートでは、プロのピアノ演奏家であり教員経験もある参加者が日本の教育格差の現状を説明した上で、彼らの学習意欲・未来への動機づけを高めるためには、保護者の子供に対する関心が非常に重要であることを10分程度スライドを使いながらプレゼンした。その後ピアノの椅子に腰かけ、子供たちの笑顔が映し出されたスライドにのせて、穏やかで美しいメロディーを5分程奏で終了した。「準備してきた言葉、演出されたプロフィールとして表現されるスピーチとその場で奏でられ、演奏者の人柄、思い、あらゆる側面を垣間見ることが出来る演奏。社会問題に関するスピーチを聴き、演奏者の思いや問題意識を知った上でその人の奏でる音楽に耳を傾けることで、スピーチの内容が演奏によってより強い意味付けがされ深く心に刻まれる。『スピーチ×演奏』の相乗効果と呼べるでしょう。」こう語るのは、現在フリーのクラシック音楽ライター兼コンサート司会者として活躍している鷲尾仁美さんだ。社会問題というマクロのレベルに音楽でアプローチするこのプロジェクトは、発表者・聴き手双方にとって新鮮な音楽スタイルであると言えよう。

音楽は今や私達の生活の一部となっている。だからこそ社会が多様化する中で、音楽と社会の関わり方も変化し、様々な世代に向けた様々な音楽スタイルが生まれ続けるのだ。

編集後記

記事作成を通じて、音楽の新しい形、可能性について知ることが出来た。音楽を創る人、発信する人、受信する人、そしてそれを広めようとする人。音楽に関係する人々のそれぞれの意識について考えることが出来た。社会音楽家プロジェクトに限らず、音楽が社会に影響を与えようとする新しいムーブメントに注目していきたい。

栗林 幸広

バチの代わりにお箸を、グランドピアノの代わりにおもちゃの小さなピアノを、演奏の前にプレゼンテーションを。ちょっとした工夫を加えて音楽にアプローチすることで社会に変化を生み出せる、この記事を通して音楽の持つ様々な可能性に触れることが出来ました。社会には多くの問題が山積するからこそ、そんな社会に溶け込み私達の生活に身近な存在である音楽は、社会問題解決の糸口になり続けるのだと思います。私も一人の音楽好きとして、これからも音楽に支えられながら様々な音楽と関わっていきたいです。

大塚 美佑